平成31年度　新規研究課題　　果樹試験場 栽培部・生食ブドウ栽培科

大課題名：(新) ブドウ「シャインマスカット」の短梢剪定栽培における多収・早期成園化技術の確立（H31～33 年）
小課題名：(新) 1 高品質で多収が可能な栽培技術の確立（H31～33 年）　（ダイナミックやまなし課題）
小課題名：(新) 2 早期成園化が可能な栽培技術の確立（H31～33 年）

背景とねらい

○「シャインマスカット」の栽培面積は全国的に急増しており、山梨県の果樹生産振興においても最も重要な品種として位置付けられている。

○また、消費者からの人気も高く、依然として高単価で取引されている。

○今後も、さらに新植・改植が進む中で、農家所得の向上を図るため、増収技術の開発が求められている。

○そこで、既存樹の樹形改造による増収や、省力技術を利用した、高品質で多収が可能な栽培技術を開発する。また、早期に成園化が可能な技術の確立を図る。

【課題の要請元】
部門別農業代表者、JA フルーツ山梨、果樹園芸会

試験内容

1 高品質で多収が可能な栽培技術の確立

（1）既存樹の樹形改造
　現場で多く栽培されている H 型短梢樹において、樹形改造により新梢の密度を高め、果房数を多く確保する。また、これまでに開発した省力的な新梢管理方法を、多収技術においても検討する。

（2）新植時の栽植間隔の検討
　一文字整枝短梢栽培において、従来の 2.25m よりも栽植間隔を縮め、主枝間隔を縮小することで、栽植本数を多くし、増収を図る。

（3）養分転流と着房数の検討
　新梢間の養分転流を明らかにし、適正な着房数を検討する。

2 早期成園化が可能な栽培技術の確立

（1）早期成園化に適した台木の検討
　一文字整枝短梢栽培において、スムーズに樹冠拡大を行い、早期に収量を確保するため、発芽障害の少ない台木（188-08、ｸﾞﾛﾜｰﾙ）の利用を検討する。

（2）副梢を利用した樹幹拡大方法の検討
　節間が短く芽座を多く確保できる副梢を利用し、成園化までの期間を短縮する技術を開発する。

期待される効果

○「シャインマスカット」において、高品質で多収が可能な栽培方法が確立され、生産量が大きく増加する。
（従来の 1.5 倍以上：2.3～2.7t/10a）

○早期成園化により、未収穫期間を短縮し、生産量の拡大が期待される。
（成園化を短縮：4～5 年→3 年）

○生産量の拡大により農家所得が向上するとともに、安定供給が図られ、山梨県産果実のブランド力が強化され、需要拡大も期待される。

【行政施策上の位置づけ】
新・やまなし農業大綱
3-（3）－①
「市場ニーズに対応した果樹の優良品種の開発と普及促進」